

## 第2回 名古屋港の将来を考える会

### 1 日時

令和5年12月1日（金） 13:00～15:00

### 2 場所

名古屋港湾会館 第1会議室

### 3 議題

- ・ 第1回の意見と対応
- ・ 「名古屋港の目指す方向性」に関する意見交換

### 4 議事要旨

- ・ 日本のゲートウェイであるべき名古屋港は、カーボンニュートラルへの貢献やDXへの対応などの付加価値を高めることや、アジアだけでなく世界の成長する地域と常に臨機応変に繋がることが重要である。
- ・ 名古屋港のポジションを持続的に発展させ、輸出入の拠点としてのポテンシャルを高めるとともに、日本一の名古屋港の役割や重要性を内外にアピールしていかなければならない。
- ・ 日本中央回廊\*が形成された際、名古屋港は基幹物流の結節点という役割を担うことが非常に重要となるなど、将来のあるべき姿をイメージし、考えていくことが重要である。また、より積極性やオリジナリティ（名古屋港らしさ）のある取組が必要である。  
\*国土形成計画（令和5年7月策定）で示された、東京圏、名古屋圏、大阪圏の3大都市圏を結ぶ、世界に類を見ない魅力的な経済集積圏域
- ・ 名古屋港で取り扱っている外貿や内貿貨物、自動車専用船で輸送する完成自動車、フェリー・RORO船で輸送する貨物などが一部で混在しており、より効率的な機能配置を考えるべきである。
- ・ 名古屋港は、背後圏へ水素・アンモニアを供給する起点となるべき立地特性があり、海外からの水素・アンモニアの受入基地、貯蔵基地、水素生成、配送拠点といった機能を期待している。

（裏面に続く）

- ・ カーボンニュートラルの関係で、LNGに加え、水素などを燃料とする船舶が登場する動きがみられることから、名古屋港を選んでもらう上で、新しい船舶燃料のバンカリング機能を持つことをイメージするとよい。
- ・ ドローン配送について、名古屋港から河川や運河の水域を活用し、実証実験を通じて実装する方向性が考えられる。また、実証の場があることで、研究開発拠点として利用する事業者が集積する可能性も高まる。港内の一部のエリアを実証実験場として提供することも考えられる。
- ・ 産業構造の変化により、次世代の製品が登場し、既存の製品と併存する中では、取扱う貨物の種類が増加するため、既存のスペースでは不足する。港の周辺などで新たなスペースが確保できるとよい。
- ・ 交流拠点の形成にあたり、金山や熱田の開発を意識し、名古屋城から金山、熱田、名古屋港の縦軸のエリアをうまくつなげていくことが重要。
- ・ 金城ふ頭には鉄道や高速道路 IC があり、クルーズ船の増加も期待されることから、そのポテンシャルを活かして国際交流機能の強化をしっかりと図っていくことが重要である。金城ふ頭の交流機能への用途純化も選択肢ではないか。
- ・ カーボンニュートラルのような共通課題への対応などについては、伊勢湾内の港湾と連携して取り組み、各港の個性や特徴を活かしながら共に発展していくことが考えられるのではないか。
- ・ 災害時に港湾機能を維持し、強靱化を図る更なる取組が必要ではないか。
- ・ ポートアイランドは、基本的にはエネルギー拠点としつつ、新産業のテストフィールドやその中で育つ産業による活用も視野にいれるとよい。現実的な利用には整備費用等、課題が多いが、投資を呼び込める貴重な開発空間があることは積極的に発信していくべきである。

以上